



御所見通信

第 3 号
2021. 5. 31
藤沢市立御所見小学校
校長 加瀬 良一

藤の花の時季も終わり、紫陽花の季節を迎えようとしています。5月26日に、6年生の市全体の行事である体育大会が善行の県立スポーツセンター陸上競技場で行われました。新型コロナウイルス感染症への対策として、今までの市内2分割実施を3分割にし、種目の変更や、座席の指定等の工夫をして、昨年度できなかった大会を実施することができ、子どもたちのたくさんの頑張る姿や笑顔を見ることができました。6月も遠足、見学などの行事が予定されています。神奈川県のみん延防止等重点措置が6月20日まで再延長となりましたが、引き続き感染防止対策の徹底を行いながら、普段の学習と併せ、子どもたちが行事を通して様々なことを学び、成長してくれるよう教育活動の充実に努めています。

さて、今年のPTA総会は書面開催となりました。2年前の総会の際、校長挨拶で「子育て四訓」のお話をしました。そのときに、保護者のみなさんに次の問題を出しました。「子育てに関して次のA～Dにはどんな言葉が入るでしょうか？」覚えている方もいらっしゃると思いますが、少し考えてみてください。

- 一、乳児はしっかり A を離すな
- 二、幼児は A を離せ B を離すな
- 三、少年は B を離せ C を離すな
- 四、青年は C を離せ D を離すな



学校教育目標

豊かに学び育つ御所見の子

～ えがお かがやき ささえあい ～

育てたい
子どもの
姿

- 自分で考えずんで取り組む子
- 夢に向かってがんばる子
- 自分も友だちも大切にする子
- 自律し、健康な心身をつくる子



答えは、A「肌」、B「手」、C「目」、D「心」です。その意味を説明しますと、

「乳児はしっかり肌を離すな」

出生と同時に赤ちゃんは外界にさらされ不安になります。その心の安定を保つためにも、しっかりと肌と肌を触れ合わせることが大切です。しっかりと抱かれることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ、信頼し安心します。それが、愛情や信頼、情緒安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤につながるのです。

「幼児は肌を離せ手を離すな」

幼児は乳離れをしますが、一気に離すのではなく、常に親がそばにいて、「心配しなくてもいいよ」という安心感を与えることが大切です。周囲のものに注意や関心が生まれるころで、自立させるための第一段階になる時期です。自立に目覚める幼児期は、完全な保護から社会に向けて一歩を踏み出す時期といえます。

「少年は手を離せ目を離すな」

少年は、友達との関わりによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてあげる必要があります。ただし、いろいろな危険があるので、目を離

